

## 経営課題5

### 健康で安心して暮らせるまち



#### 5 - 1 住みなれた地域で安心して暮らせる地域福祉の推進

##### 【めざす状態】

- ・ 高齢者や障がい者が周囲に支えられ、また、安心して暮らせるようになったと感じる区民の割合を増やす。

##### 【戦略】

区の地域福祉を着実に進めるため、地域福祉活動に関する広報や啓発を行い、人権を尊重し、みんなで支えあう社会づくりの機運を高めると共に、平成27年3月に策定した「鶴見区地域保健福祉ビジョン」に基づき、活動の充実が図られるよう支援する。

# 高齢者障がい者への理解の啓発等

## 計画

- 高齢者、障がい者と地域、団体とのつながり、ふれあいをテーマとした啓発事業
- 障がい者支援関連の研修会・講習会等の開催
- 高齢者への理解を深めるための講演会等の開催
- 高齢者福祉に関して、地域包括支援センター職員や福祉専門職員のスキルアップを図るための勉強会・事例検討会の開催

## 目標

講演会等を通じて高齢者や障がい者に対する理解を深めたと回答した参加者の割合 70%以上

## 実績

- つながりをテーマとしたつながろうふれあいフェスタの開催1回
- 障がい者相談支援に関する研修会
- 医師会主催の講演会「区民で支えよう認知症」に共催
- 認知症に関する多職種協働グループワーク
- 事例検討会 12回開催



## 評価

講演会等を通じて高齢者や障がい者に対する理解を深めたと回答した参加者の割合

### 目標

70%  
以上

### 結果

90.0%

高齢者・障がい者が地域で安心して暮らすために、正しい理解の普及や関係機関のスキルアップと密な連携が必要である。そのために、講演会や研修会、「つながろうふれあいフェスタ」等の取り組みにより、理解の普及やスキルアップが図れるとともに、高齢者・障がい者の関係機関の連携がこれまでよりも進んだと考える。

## 29年度の 取組み

高齢者・障がい者への理解が深まるための取組みとその周知や支援機関等関係機関のスキルアップと連携に向けた取り組みを行う。

- ・高齢者、障がい者への理解を深めるための講演会等の開催(1回)
- ・地域包括支援センター職員等へ的高齢者福祉関係研修会・事例検討会の開催(12回)
- ・障がい者支援関連の研修会等の開催(1回)
- ・福祉資源マップの作成、配付



# 地域福祉力の向上

## 計画

- 住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業の推進
- 要援護者見守りネットワーク強化事業との協働

## 目標

- 地域のつなげ隊、ふれあい員を知っていると答えた区民の割合：50%以上
- 有償ボランティア制度(あいまち)を知っていると答えた区民の割合：50%以上

## 実績

住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業の推進

- コミュニティソーシャルワーカー設置 3名
- 各地域に地域福祉コーディネーター(つなげ隊)を配置 12名
- 広報紙での「つなげ隊」紹介 1回
- 各地域の福祉活動に対する助成
- 有償ボランティア制度の定着
- 広報紙での事業周知 2回
- 講演会 1回
- はじめての「あいまち」講座 4回連続講座HPでの情報発信 随時

要援護者見守りネットワーク強化事業との協働

- 要援護者対象者(高齢者・身体1・2級)1,406名に同意確認文書を発送し、返送により「同意」「不同意」の確認を行い、要援護者名簿の作成を行った。うち「同意」の得た方のリスト(658件)を各地協及び民生委員協議会に提供
- 孤独死リスクの高い要援護者の見守り:相談延べ1,486件(うち訪問651件)
- 認知症高齢者等徘徊時メール配信:事前登録者27名 協力機関14件



有償ボランティア「あいまち」  
ボランティア活動の様子



有償ボランティア制度  
「あいまち」PRグッズ



地域福祉コーディネーター  
「つなげ隊」の皆さん

## 評価

地域のつなげ隊、ふれあい員を知っていると答えた区民の割合



目標

50%  
以上

結果

26.6%

有償ボランティア制度(あいまち)を知っていると答えた区民の割合



50%  
以上

32.0%

住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業、要援護者見守りネットワーク強化事業は順調に推移した。有償ボランティア制度は満足度も高く、会員も増加している。今後も引き続き認知度が上がり、必要な方に情報が届くよう、効果的な広報・周知方法の検討を図り、実施していく必要がある。また、福祉の向上に向け事業を進めるにあたり、関係機関の連携・情報共有を密に図っていく必要がある。

## 29年度の 取組み

- ・効果的な広報・周知の方法として、こうほうつるみへの掲載による周知に加え、SNSを活用したPR等を積極的に行い、幅広い世代への周知を図る。
- ・要援護者名簿に係る同意確認及び名簿整理と広報誌・HP等活用した事業周知に努める。

# 経営課題5

## 健康で安心して暮らせるまち



### 5 - 2 健康づくりへの支援

#### 【めざす状態】

区民がすこやかで心豊かに生活できる活力あるまちを実現するために、「健康寿命」の延伸をめざす。

#### 【戦略】

肥満者率改善のために、健康づくりの2本柱である「栄養・食生活」「運動」に関する知識、情報を提供し、健康づくりが実践できる場を作る施策を地域団体や関係団体と協力して推進する。

# 健康増進意識の向上

## 計画

- 幅広い年齢層に運動習慣の動機づけやより良い食生活習慣を身につける機会として、家族で楽しんでもらえる健康づくりイベントを開催する。

## 目標

健康づくり事業に対する満足度:70%以上

## 実績

- 健康まつり・食育フェスタの同時開催
- ウォーキング教室の開催
- 健康に関する講演会『食育講演会』1回





**健康まつり&食育フェスタ**

10月1日開催

参加者1,000人



**鶴見区食生活改善推進員協議会(ヘルスマイト)さんの活動の様子**



**ウォーキング教室  
講師 石田 忍 氏**

11月16日開催

参加者45人



**食育講演会「災害時の食について考えよう！」**

講師「坂本廣子 氏

3月3日開催

参加者165人

## 評価

健康づくり事業に対する満足度

目標

70%  
以上

結果

88.0%

健康まつりと食育フェスタの共同開催により参加人数を大幅に増やすことができたことから、動機づけのイベントとしては大きな効果があったと考える。また、「運動」の動機づけとして取り組んだウォーキング教室については、参加者の満足度は高いものの、参加者数が減少傾向にあるため、募集方法等の改善が必要である。次に、「食育講演会」については、当初計画では予定していなかったが、区民アンケート等で最も関心が高いテーマとして実施することとした。今後も参加者を増やすために、区民ニーズを把握し、事業に取り入れていく必要がある。

## 29年度の 取組み

地域のさまざまな取り組みと連携し、区民の健康保持・増進を促すとともに、関係団体と協働し、運動習慣づくりや食生活の改善など、区民の自主的な健康づくりを進めるため、幅広い年齢層が参加できるイベントを開催する。

- ・食育フェスタの開催
- ・健康展・健康に関する講演会の開催
- ・ウォーキング教室の開催

健康づくりに役立つ情報発信に取り組む。

## 【経営課題全体としての評価総括(自己評価)】

- 高齢者や障がい者への理解が深まる研修会、講演会等を開催し、啓発に努めており、その参加者アンケートの結果により区民の理解度は深まっていると認識している。
- 有償ボランティア制度(あいまち)については、会員登録者数は増加しており利用者の満足度も非常に高いが、区民の認知度はまだ目標に達していないため、必要な人に情報が届くように、引き続き制度の理解や周知の効果的な方法について検討していく必要がある。一方、要援護者の見守りネットワーク強化事業を進めるにあたり、要援護者リストを各地域に提供することにより地域で連携や見守り体制を強化するための検討・工夫が進み、ネットワーク力の向上のきっかけとなっており、地域の福祉力向上につながっていると考える。
- 鶴見区の特定健診や各種がん検診の受診率は大阪市トップクラスを維持しており、特定健診受診者の肥満・脂質異常症有者の割合は、男女ともに大阪市平均より高いものの女性に一定の改善が見受けられる(肥満者割合 20.0%→19.4%、脂質異常症有者 57.6%→57.5%)。また、健康寿命についても延伸が見受けられることから、日常生活の中で健康増進を習慣化している区民の割合が増加しているものと考えられる。引き続き区民が自ら健康増進を習慣づけて取り組めるような啓発や事業に取り組んでいく。